

令和5年度 学力向上プラン

学校名 中央区立城東小学校

学校の教育目標

- | | | |
|-----------------|-----------------|---------------|
| ○心豊かで思いやりのある子 | ○自ら考え学ぼうとする子 | ○進んで正しいことをする子 |
| ○最後までねばり強くがんばる子 | ○健康に気をつけ体をきたえる子 | |

教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

- | |
|-----------------------------|
| ○子どもが分かる授業 |
| ○基礎・基本の学力の定着と思考力・表現力・判断力の育成 |

令和4年度「学習力サポートテスト」や令和4年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国 語	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度学習力サポートテストにおいて、ほとんどの観点で校内平均正答率が全国の平均正答率を上回っている。4年生の「漢字を書く」、6年生の「漢字の由来」が全国正答率を下回っている。 6年生の「話すこと・聞くこと」が他の領域よりも低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「漢字を書く」の課題については、前学年に配当されている漢字を正しく身に付けるための反復練習が十分でなく、由来も理解できていない。 意図に応じて話の内容を捉えることができていない。
算 数	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度学習力サポートテストにおいて、4年生と6年生はすべての観点で全国の平均を上回っているか同程度である。一方、5年生の直方体のある面に平行な辺の理解、折れ線グラフから変わり方を読み取る、の2つが目標値を下回っている。 どの学年も2極化傾向が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 立体の理解やグラフの読み取りが定着していない児童が多数いる。作図やグラフの読み取りの経験を重ねていく必要がある。 問題解決型学習を通じた基礎・基本の定着状況に課題がある。
社 会	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度学習力サポートテストにおいて、社会的事象について複数の資料をもとに考えたり、工夫していることについて考えたりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料の読み取り、活用する力が不十分であるために、自分の考えを記述することに影響が出ている。
理 科	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度学習力サポートテストにおいて、全体の平均正答率はどの学年も中央区の平均を上回っているか同程度であるが、個別に見ると「身近なしぜんのかんさつ」「太陽と地面のようす」の正答率が他の問題に比べて若干低い。 乾電池の向きを入れかえたときの車の進む向き、水を熱したときの温度変化を表す折れ線グラフをもとに水の量のちがいと沸騰する温度を関連付けて記述する問題が目標値を10ポイント以上下回っている。乾電池の問題は区の平均を20ポイント以上下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に「自然」や「植物」を扱った問題に課題が見られる。コロナ禍による休校や校舎移転の影響で実体験を伴った学習が十分にできなかったことが一因と考えられる。 算数同様グラフの読み取りができていない。また、複数のものを関係付けることを苦手としている。考察をより丁寧にしていく必要がある。
英 語	<ul style="list-style-type: none"> 読むことの領域の正答率が低い。 観点別では、知識・技能の正答率が、区の平均より下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 道案内や日常生活に関する対話を聞き、目的や場面状況などを推測して理解していない児童がいる。
体 育	<ul style="list-style-type: none"> 体力テストにおいて、ソフトボール投げが全国平均より下回っており、投げる運動に課題がある。 長座体前屈が全体的に課題となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ソフトボール投げについては、遠投する力を身に付ける取組を十分には設定できなかったことが原因の一つと考えられる。 柔軟運動などの体作りの運動を行う機会が十分ではなかった。

学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の習得については、学期末や学年末の確認テストにおいて、平均正答率が80%を上回る。 話し合い活動を充実させ、学期末や学年末の確認テストにおいて、平均正答率が85%を上回る。
	算数	<ul style="list-style-type: none"> 「立体」や「グラフ」の内容について、学習力サポートテスト正答率が、区の平均に到達する。 問題解決型学習を通して、基礎・基本の定着を図る。学期末や学年末の確認テストにおいて、「知識・技能」の平均正答率が85%を上回る。
	社会	<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象について複数の資料をもとに考えたり、工夫を考えたりすることに慣れ、学期末や学年末の確認テストにおいて、「思考・判断・表現」の正答率が80%を上回る。
	理科	<ul style="list-style-type: none"> 自然に関係する内容について、学習力サポートテスト正答率が中央区や全国平均を上回る。
	英語	<ul style="list-style-type: none"> 語彙を増やし、自分の気持ちを英語で表現して対話することに慣れる。
	体育	<ul style="list-style-type: none"> ソフトボール投げの平均記録を、前年より1m伸ばす。 長座体前屈の平均記録を、前年より3cm伸ばす。
②授業改善		<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を中心にICT機器を利用して、視覚的、体験的な活動を深める活動を多く取り入れる。 ドリルパークを活用して、定着が不十分な児童が反復して取り組む機会をつくる。 校内研究で指導法だけではなく小グループや発表の仕方などを工夫し、問題解決型学習の成果を普段の授業に取り入れていく。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価の保護者アンケート「学校は発達段階に応じてタブレット端末を活用している」の項目において、肯定的な回答が85%以上となる。
③家庭との連携		<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校日より、学年の連絡、校内研究などを連絡アプリ tetoru に掲載して、定期的・計画的に情報の共有を行い、学校の方針、取組等を保護者にきちんと伝え、子どもの成長を共に支えてもらえるようにする。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価の保護者アンケート「学校は保護者に出す文章や連絡等は、わかりやすく内容も適切である」において、肯定的な回答が85%以上となる。
④体力向上		<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動量の確保とマイスクールスポーツにより、児童の基礎体力の向上を図る。 <p>【指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童の運動に取り組む満足度による肯定的な意見が85%以上となる。



【目標達成のための具体的な取組内容】

① 各教科	
国語	<p>授業中に、タブレット端末を活用し、ドリルパークなどで漢字を繰り返し練習する時間を設けて定着を図る。また、丁寧な読み取りを重視した指導を行う。また、学習の中でペアやトリオなどさまざまな形態での話し合い活動を取り入れ、適切に話したり要点をまとめたりする時間を計画的に設定し、話す・聞く力を育成する。</p>

算数	授業やアフタースクール、朝学習の中で、学年の課題となっている項目を中心に、東京ベーシック・ドリル、ドリルパーク等を活用し、各学年での基礎学力の定着を図る。
社会	資料の読み取り、活用する機会を意図的に取り入れ、自分の考えを記述する活動を毎時間ごとに行う。
理科	タブレット端末や大型提示装置、実物投影機等を活用して事象提示や記録方法を工夫し、体験的な学習活動を補完する。
英語	Classroom Englishを増やすために、掲示物を充実させ、発話につなげる。ALTと個別に対話する時間を各児童が学期に1回はもてるようにする。
体育	年間を通して、授業中にボール投げなどボールを自在に扱う運動を短時間・複数回取り入れたり、準備運動に短時間で効果的な柔軟を毎回取り入れたりする。外部指導員による投げ方教室などでの指導の定着を図る。

②授業改善

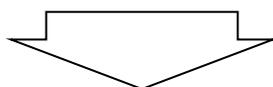
取組Ⅰ	タブレット端末や大型提示装置、実物投影機等を活用して事象提示を工夫し、様々な資料に触れさせ読み取る機会を増やしたり、実際には見ることのできない映像を見て、体験的な学習活動を補完したりすることで授業改善を図っていく。
取組Ⅱ	校内研究を生かし、生活科・理科・算数の授業を中心に、問題解決型の学習活動を展開することで、筋道を立てて説明する場を設け、授業改善を図っていく。

③家庭との連携

取組Ⅰ	全校保護者会の前に、管理職から保護者への学校の取組について説明の機会を設定することで、家庭との連携を高める。
取組Ⅱ	学校だより、学年便りなどを連絡アプリ tetoru に掲載するなど、ICTを活用して学校の様子を保護者に知らせていく。
取組Ⅲ	入学前の家庭に対して、面談を行う。また、1学期に全学年個人面談を行うことで、家庭との連携を高める。

④体力向上

取組Ⅰ	短縄、長縄の取組のキャンペーンを設定し、全校で取り組み、体力向上に努める。
取組Ⅱ	外部の講師を招き、投げ方教室、走り方教室など各種スポーツ教室を行い、体力向上や技能向上に努める。



【取組結果の検証】

学力向上に向けた視点		取組の成果	取組の課題及び解決策
① 学力基盤	国語		
	算数		
	社会		
	理科		
	英語		
	体育		
② 授業改善			
③ 家庭との連携			
④ 体力向上			